

## 令和2年度 第6回 生涯学習審議会会議抄録

日時：令和3年2月25日（木）13時30分～15時00分

場所：西宮市役所東館7階 教育委員会分室

### ◆出席委員

立田会長※、森副会長、飯干委員、根岸委員、三澤委員※、川本委員、田中委員、佐藤委員※、本多委員※、吉田委員、大部委員※

### ◆行政出席者

坂田教育次長※、上田生涯学習部長、藤江文化スポーツ部長※、漁学校教育部長※、藤綱生涯学習事業課長※、谷口地域学校協働課長※、俵谷文化財課長※、石井地域学習推進課長※、北読書振興課長※、中西読書振興課担当課長（図書館企画）※、牧山青少年育成課長※

### 【事務局】

中島生涯学習企画課長（併任 社会教育部参事）、坂井生涯学習企画課係長、酒井生涯学習企画課係長、中村生涯学習企画課係長、林生涯学習企画課副主査、長手生涯学習事業課係長※、渡邊生涯学習事業課副主査※

※Zoom を介した出席

署名委員

---

#### ◆議事抄録

会長 定刻になりましたので、ただ今より令和2年度第6回生涯学習審議会を開会いたします。次第に従い議事を進めていきたいと思っております。本日は、委員の出席は11名です。

今回の会議は、報告事項第2号「西宮市生涯学習推進計画」については、現在、推進計画の策定段階ですので、非公開とさせていただきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

委員 【異議なし】

会長 それでは非公開で進めたいと思っております。傍聴者はいますか。

事務局 ございません。

会長 それでは、議事次第に従いまして協議に入ります。報告事項第1号「令和3年度成人式『二十歳を祝うつどい』の実施結果について」、事務局よりご報告をお願いします。

事務局 1月11日に開催した令和3年度成人式『二十歳を祝うつどい』の実施について報告します。成人式開催直前に新型コロナウイルス感染症拡大があり、中止、延期を決める自治体もある中、開催すべきかどうかについて非常に難しい判断を迫られました。最終的には市長の意向も確認し、総合的な判断のもと実施しました。会場は前回同様阪神甲子園球場で実施しました。新型コロナウイルス感染症対策として、新成人には座席間隔を空けて1席おきに座っていただくことや、マスクの常時着用、入場口では検温、手指消毒にご協力いただきました。また、新成人が友人を探して滞留する状況を緩和することを狙い、中学校区ごとに座席エリアを設けて速やかに入場を促すようにしました。式典もなるべく短時間に終われるよう、必要なプログラムに絞って実施し、昨年実施したジェット風船飛ばしも、飛沫、接触感染防止のため今回は見送りとしました。このように感染症対策を行いながらの実施となりましたが、当日は参加人数3,793人、市内成人式対象者の内、参加率70.5%と昨年を上回る人数、参加率となりました。参加者アンケートでも開催したことへの感謝の言葉もいくつかあり、コロナの影響で様々な制限がされている中で、成人式を楽しみにしていただいていたと感じました。そういう期待に応えて実施できたことは大変良かったと思っております。一方で新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からは、マスク着用や手指消毒にはほとんどの新成人に協力いただけたと思っておりますが、密集状態を避けるという点では、こちらの誘導になかなか従っていただけない難しい状況もありました。式典終了後に会場周辺で歓談の輪ができて混雑状態となり、混雑解消までに1時間程度を要しました。開催できたこ

とは大変良かったと思いますが、来年度も同様の状況での開催となると工夫が必要だと感じています。それから、本市の成人式は毎年成人式実行委員会を組織し、準備や当日の運営に若い人たちに関わっていただいています。今回は生涯学習審議会委員である委員に成人式実行委員会の代表の役を努めて頂きました。当日は、実行委員会代表として、式典最後のプログラムである三本締め音頭をとっていただくなど、今回の開催では大変お世話になりました。委員には改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。以上で成人式実施結果の報告とさせていただきます。

会長           このことについてご意見、ご質問はございますか。特になければ、実行委員として参加された委員からご感想をお願いします。

委員           今年はコロナの影響でジェット風船が飛ばせなかったり、代わりのことも制限されており、新成人に満足してもらえるかとか、本当に実施できるかとか、不安な状況でしたが、無事に実施もでき、いろんな工夫やパンフレットなども工夫して楽しんでもらえたようで、大変良かったと思いました。ありがとうございました。

会長           続いて、報告事項第2号「西宮市生涯学習推進計画について」の(1)「パブリックコメントの実施結果」についてと、(2)「素案」について、合わせて事務局よりお願いします。

事務局          昨年から委員の皆様や庁内外にもご意見をいただきながらすすめてまいりました、「西宮市生涯学習推進計画(素案)」のパブリックコメントの実施結果についてご報告いたします。「資料1」をご覧ください。

パブリックコメントは、令和3年1月4日月曜日から2月3日水曜日まで実施し、44名の方から、105件のご意見をいただきました。意見提出方法や提出者の年代別、居住地域別、職業別はご覧の表のとおりです。

その下の(2)アは、いただいたご意見を大まかに項目別に分類したものです。今回、本当に多種多様なご意見や提案をいただきましたので、分類は参考程度なのですが、次ページ以降の表は、この項目順に並べております。生涯学習に関する情報提供、情報発信を求める意見、ICT活用の学習、特に高齢者への必要性をうったえるものがありました。学習機会の提供に関しては23件あり、特に宮水学園に対するご意見などが多くございました。また、図書館などの施設に関するご意見が12件、市民が生涯学習に参加するためのアイデアなどもたくさん提出していただいています。連携・協働という項目では、地域団体や学校、NPO、大学、民間企業などとのネットワークづくりを促進すべきというご意見や、自治会などの地域活動に関するご意見も多くいただいています。また、計画の期間や進捗管理についてのご指摘も多くございました。

右隣の表イの、「回答分類」の欄をご覧ください。ご意見の内容が既に素案に盛り込まれているもの 22 件、ご意見をもとに素案を修正するもの 12 件、今後の参考・検討とするもの 62 件、ご意見の反映や対応が困難であるもの 7 件、素案の内容と直接関係のないもの 2 件の合計 105 件の意見がありました。いただいたご意見については、計画に反映できなかったものも含め、施策を進めていく上で、参考にさせていただこうと思います。

1 枚めくっていただきまして、5 ページからは、左から通し番号、素案の項目、記載ページ、ご意見の概要、件数、市の考え方、回答分類を記載しております。今日の資料は担当課も記載しています。このご意見については、もし市の考え方で少し違うのではないかという点があれば後程ご意見を頂ければと思いますが、一つ一つの説明は省かせていただきます。

次に 31 ページをご覧ください。パブリックコメントのご意見のうち、素案に反映させたご意見が 12 件ございましたが、これに対する修正について記載していません。複数のご意見を受けて修正したものや 1 つのご意見で 2 か所修正したのものもあり、全部で 9 箇所素案を修正いたしました。「資料 2」の計画素案も併せてご覧ください。

計画素案にマーカーを引いている箇所が修正した箇所となります。No. 1 の意見については、計画案 5 ページの計画期間について、素案では計画期間を 10 年とし、必要に応じて見直すとしていたのですが、変化の激しい時代にあって、きちんと見直すことを記載すべきだというご意見が 5 件あり、西宮市第 5 次総合計画の見直しを踏まえて、この計画についても見直しをすると修正しました。

No 2、3 は、100 番の方の意見で、計画案 8 ページの基本方針の文章が長いというご指摘により修正しております。

No 4 は 37 番の方のご意見で、計画案 21 ページの人権に関する学びの支援の項目で、グローバル化の推進と在留外国人・訪日外国人の増加への対応について記述が弱いというご指摘を受けて、多文化共生の文言を追記しました。

No 5 は、計画案 27 ページで図書館の記述が少ないというご指摘で、図書館については、別途部門別計画として事業計画がございますので、その旨を加筆しました。

No 6 と 7 は、54、55 番の方のご意見（15 頁）ですが、計画案 27 ページの一番下の◆で、市内に点在する美術館博物館が市民の学習機会提供へ貢献していると思うが、具体的な言及がないといったご意見がございましたので、郷土資料館としていた項目を、博物館とし、文化の項目に書いていた貝類館もまとめて、大谷記念美術館についても記述を加えました。あわせて、資料編の 48 ページに生涯学習関連施設の一覧を載せておりますところに私立の博物館等も、本日の資料にはまだ記載が間に合っておりませんが、追加するようにいたします。

No 8 は、85 番の方のご意見で、計画案 39 ページですが、社会福祉協議会との緊密な連携が不可欠であるというご意見に基づいて、地域共生社会の実現に向けた

生涯学習の推進の項目に、社会福祉協議会との連携について、具体的な名称も入れて加筆しました。

最後のN09では、計画案45ページの計画の進捗管理のところで、生涯学習推進本部が外部評価になるかご指摘があり、庁内の組織は内部となるよう区分を明確にして修正しました。パブコメに基づく素案の修正は以上でございます。

素案公表後にパブコメ以外の理由で修正した箇所は軽微なものを除きますと1点で、計画案2ページの生涯学習の理念図がありますが、公民館・図書館・郷土資料館・文化財行政が教育委員会の枠に入った図になっていましたが、4月以降は首長事務部局に移りますので、そのように図を修正して差し替えたものでございます。説明は以上です。

会長 非常にたくさんのご意見を頂きありがたい限りです。また、それぞれについて事務局でご丁寧な対応をいただきありがとうございました。今後の参考とする意見が62件ということで、どう取り入れていくかということはありませんが、事務局では何かお考えはありますか。

事務局 5～6ページにわたって意見を書いてくださる方や、他市の事例のチラシを添えて提示して頂いた方などたくさんあり、すべてを実施するのは困難だと思いますが、できるだけ落とし込めるように整理して、今後の施策の参考にしたことを見えるような形にしていく必要があると考えています。

会長 委員の皆様からご意見を頂きたいと思いますが、私から1点、素案の27ページですが、博物館について、市内に点在するとありますが、点在という表現が寂しく感じます。市内の、ではいけないでしょうか。点在というとばらばらにあって連携するという意味ではそれでもいいかもしれませんが、少し気になりました。博物館施設が少ないというイメージになりそうです。

事務局 私立も含めると市内にもそれなりの数があるということをお願いして「点在」と表現しましたが、寂しい感じになるでしょうか。

会長 普通に「市内の」でいいと思います。ご意見あればお願いします。特にないでしょうか。事務局より7ページの循環図についてお話があるということですが。

事務局 7ページの循環図をご覧ください。12月議会の民生常任委員会と教育子ども常任委員会で説明したところ、ある議員から学びと学習についてきちんと言葉を使ってほしいという指摘がありました。その中で、7ページの図で、学びづくり、人づくり、つながりづくり、地域づくりという時に、一人ひとりの学びや学習というならわかるが、つながりづくりや地域づくりのすべてを含めて学びと言いたかつ

たのではないのかということで、図の下の学びについては、一人ひとりの学びや学習という表現に変えてはどうかという意見がありました。皆さんの感覚もお聞きできればと思いご意見を頂ければと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局

そういう意見もあり、4つ丸があって一番下に学びとありますが、そこでの学びと、他の学び、ひとづくり、つながりづくり、地域づくりのそれぞれで学びがあるのではないかと捉えたのですが、私個人の考え方になりますが、一番下の丸の学びをとってしまうとか、全体でいろんな学びがあるような表現にするとか、循環ということでは知の循環社会というイメージがありますが、人づくり、地域づくりのなかで相互に知識と知識が繋がって新たな学びが生まれるイメージの方がよいのではという気もして、委員の皆さんにご意見を頂きながら、この表をより分かりやすいものにできればと思っています。

会長

先ほどのことについて2つの概念の問題があり、一つは一人ひとりの学びということと、社会的な学びということをこの図の中でどう区別したらいいかという問題があると思います。もう一つは、「学び」という言葉と「学習」という言葉をどう置き換えるか、すべてを学習とすると非常に硬いイメージがあります。左側では学習と学びを使い分けていますので、そこは学習のままでよいと思います。ただ、一人ひとりの学びと社会的な学びをどう区別するかについては気になっていて、例えば左下の一人ひとりの学びがあるとしたら、その上をつながる学び、人とつながる学びに変えるとか、社会に循環する学びという部分をどう表現したらいいかということが出てくると思います。そう考えると、循環の下の学びという概念を、それそのものを、ただ単に学習と置き換えたらいいいのか、そこに人からの学びという入れ方をしたらいいのか、そういう点では図では表現ができない気がして、図で表現できないなら文章の中で表現を考えるしかないと思います。ただ視点1と2の表現では一人ひとりの学びと人とつながる学びをどこかにいれたらよいのではないかと思います。図そのものを変えるより、視点1、2で文章を増やすということも具体的な改善案として考えられると思います。

事務局

お尋ねしたいのですが、人づくり、つながりづくり、地域づくりとあり、矢印は一方通行に見えますが、本当に一方通行でよいのかという気もします。つながりづくりの中で人づくりになる面もあると思い片方の矢印でいいのだろうかと思うのですが、いかがでしょうか。

会長

フィードバックという意味で言われるなら、一方通行で回っているのはP D C Aサイクルの意味合いがあると思います。それを双方向にしてしまうと変になるのではないかと思います。フィードバックという観点を入れるとしたら、対話という言葉がどこかに入るといいような気がします。つながる学び、社会参加、対話

という言葉が入ったらいいと思いますが、出てきたご意見は学びを学習に変えてはどうかというご意見だったということですが、学習と学びは分かりやすい言葉として学びを使い、難しい言葉で学習という言葉を使っているのも別に良いのではという気はします。学びとつながりと持続的で循環的な、でしょう。それとも、真ん中の下の循環の学びを持続的な学びに変えてはと思います。循環という言葉はありますが、持続的という言葉はないので、持続的という言葉に変えればもっと動くのではないかと思います。一つの意見です。

委員 学びの言葉が中心にあり、その周りにこれがあります。4つが並列にあります。ひとつづくり、地域づくりの源が学びなら、その位置はどうあるべきか。また方向性は一方通行ではない方がよいと思います。多様な学びの中に人からのものや教えられるものがあり多様な学びが人づくり、地域づくりにつながっていると私は感じました。学びが土台になってないと思います。学びがあってひとつづくり、つながりづくり、地域づくりのイメージに、この図ではならないと感じました。

事務局 これでは計画としては固まりますので、できれば皆さんのご意見を頂ければと思います。

委員 今のご意見と重なると思いますが、視点1、2の文章を読むと、つくるという言葉が多く、つながりや地域はすでにあるけれどそれをより良いものにしていくという点につくる、というニュアンスがあると思います。そしてその、つくるの部分にこそ学習が必要だと理解しています。表現は学びの方がやわらかいと思いますがどちらでもよいと思いますが、学びを中心において、トライアングルのように人づくり、つながりづくり、地域づくりがあり、学びは全てに向けて矢印が向いているように感じました。周辺の矢印は一方向でもよいと思いますが、双方向に影響しているのがより実態に近いと思いますので、トライアングルで外側にして矢印を外側に向ける、三角にするのか円のようにするかはデザインだと思いますが、中心に学びがあるということ表現し、全体として生涯学習や持続可能なまちづくりの一つのしくみ、システムだということが表現できると良いと思いました。配置として学びを真ん中において、他の3つを周りに配置したらどうかと思いました。

会長 ありがとうございます。今のご意見を踏まえると学びを真ん中に置くのがよいと思います。その場合に学びの意欲創出と一人ひとりの学びを一つにする必要があり、多様な学びという言葉に置き換えて、学びを真ん中に持ってくるのでどうでしょうか。そうするとトライアングルで、学びによる循環としてよいかどうか気になりますが、循環が全て学びによるとは限りませんので。真ん中に循環を置くのか学びを置くのか、もう少しご意見をお願いします。真ん中に何をキーワード

ードとして置くかですね。

左側は循環的な学習、右側は循環的な社会の発展ですので、これを持続的な社会の発展という言葉に置き換えるか。事務局いかがですか。

事務局 学びの循環かなと思ったのですが、トライアングルで持続的な発展をしていくというイメージでいいでしょうか。真ん中の言葉がポイントかと思います。

事務局 指摘された議員も図全体が学びであるということで、持続的な社会の発展は背景に大きな矢印で表現しているという図になっているので、あえて真ん中に持続的な発展という言葉を書かなくてもよいのではないかと思います。

事務局 委員のご指摘のように、学びが基本にあってそれを通して人間が成長し、それが地域づくりやつながりづくりになっていくという表現ができればと思います。

会長 それでは真ん中に置く言葉を生涯学習としては駄目でしょうか。生涯学習を基盤としたまちづくりですので、それを真ん中にする、その周りに人づくり、つながりづくり、地域づくりがあるというようにすると、生涯学習を基盤とした持続可能なまちづくりというイメージにピッタリではと思います。

委員 図を書いたものとしての思いを抜きに進んだので、それでも良いかと思ったのですが、この図は左側の目指す将来像や、上の基本視点をどう図に表すかという思いで、前回描かれていた図が、かくかくして、もう少し丸みをとて言い出した責任上作成しました。左の目指す将来像にはこの計画で何をやるかということで、この計画はまちづくりであり地域社会の構築が目標だとあります。その地域を創るためには、ばらばらで取り組んでいたものを上手に連携させて循環させることでスパイラル現象を起こしていきましょう、それが人づくりにもつながるし、個の学び、私は4つの一番下の学びは個の学び、自分が学びたいという思いがあって学ぶ、その思いが同じところで重なり合うところで人づくりになり、地域づくりにつながっていく、その循環をつくるのがこの計画では大事なのだと読み取りました。ですので、視点1で学びと人づくり、つながりづくり、地域づくりが並列して書かれています。一人ひとりの学びを大事にするという意味ならここは併記されていないと思います。併記することで視点2の持続可能な循環型のまちをつくっていきましょう、ということかと思って、それを図に落とし込みました。その意味で、最初の図もキーワードは循環させるということです。そのしかけをどう作っていくのかということがこの計画にちりばめられている、具体的な方針としてという理解でした。ただそれは私の読み取りですので、トライアングルにして個の学び、一人の学び、地域づくりではなく一人一人の学びを高める記載内容だということなら、真ん中に一人一人の学びでも入れたらいいと思います。そう



いう思いでつくりました。

会長            今の委員のご意見はもつともですね。そういうことであれば作り直す必要はないように思います。このままでいけると 생각합니다。見た人が、循環という言葉が促進されるということと、一人ひとりの学び、人づくりも地域づくりもこの図ではバランスがとれていてよいと思います。トライアングルでもよいですが、学習が抜けてしまうことと、委員がおっしゃるように目標は持続的な循環だということを考えればこのままでもよいような気がします。

事務局            委員のお話はその通りで齟齬はないと思います。一つわかったのは、一番下の学びは一人一人の学びという意味で、左側の学びとダブっているということと、一人ひとりの学びと社会的な学びの区別というか取り違いが議員さんにも生じて、ご指摘につながったと思います。一人ひとりの学びが原点になって社会的な学びに発展していく、それが地域づくりにつながり学びの意欲につながってということなのかなと思います。

会長            議員さんの疑問の一つが学びという言葉と一人ひとりの学びがあるのに、ということがあると思いますが、委員がおっしゃったように、多様な学びや持続的な学びという言葉を下の学びに入れ替えるだけでも大分意味が違ってくると思いますが、いかがでしょうか。

委員            今のご意見を受けてですが、似たような言葉が違う表現で使われていることが分かりづらいということがあると思います。まちづくりと社会の発展という言葉も、違う意味を込めているか分かりにくいということで、同じ意味なら同じ言葉を、違う意味ならその説明を上の方で加えて整理した方がよいのではということが一つです。もう一つは委員の説明で私も理解が深まりましたが、視点1を読むと学びが人とのつながりを育み行動する人を育てるとなるので、学びからつながりに矢印が引かれているように読めるため、文章と図が一致していないようにも読めますので、一致させられないかと思いました。改めて図を見ると、左側に学習の支援、右側に発達と社会の発展とあり、これが長いのでパッと理解しにくいところがありますが、左側に学習支援、右側に社会の発展があるとするなら、支援する対象である学習が真ん中にあるはずなので、背景になっている真ん中の中央の部分全体が生涯学習を表現していると理解し、左側は何らかの多様なアプローチでそれを支援するという要素があり、真ん中に学習があり、右側の出口に社会の発展があると思うので、全体で生涯学習を表現していると。そして生涯学習とは何かということを変数分解するものとしてつながりづくりや地域づくりという要素がちりばめられていると思います。全体として生涯学習であり、でもその中に学びという言葉があると、生涯学習と学びがどう違うのかも疑問になるので、用語

の説明が要素の整理を少ししたほうが誤解なく伝わると思います。それから、個の学びと社会的な学びが二元的に表現されて議論されていますが、私個人の立場としては完全な個の学びは存在しないと思っており、一人ひとりの学びはいろいろな人や環境に影響されて学ぶということだと思いますので、完全に一人で学ぶこともなければ、完全に社会的な学びもないと思っており、あまり明確に個の学びとそれとは違う社会的な学びがあると区別しすぎるのも誤解を生むかなど。一人ひとりの学びも俯瞰的にみれば周囲の影響を受けて社会的に学んでいると思いますので、あまり個の学び、一人の学び、パーソナライズされた個人のニーズに合わせた学びと言えば大事なアプローチだと思いますが、個の学びとして誰の助けの借りずに学ぶというニュアンスも出てしまうので表現を工夫したいと思いました。

会長            ありがとうございます。全体としてこの表の中で生涯学習が意味されているのは確かですが、トライアングルにするか4つにするかということと、循環した学びという言葉を私は持続的な学び含多様な学びに置き換えると、図全体に違う意味になり、循環という言葉もありますが、持続的なという言葉が図に入っておらず、視点2で持続性を出している部分があると思うので、持続可能性という言葉を押し出す形では、循環の下の学びの丸を持続可能な学びとしたら、つながるかなという気がします。委員の人づくり、つながる学びは逆方向だというご指摘もあります。流れとして逆方向に動く引っかかるので回すのはこのままでよいと思います。三角形にして逆方向にするのはあるでしょうが、循環を考えればこのままがよいと思います。ここについては、後は事務局でご検討いただくということで、今のご意見を踏まえて作り直していただくということでよろしいでしょうか。

事務局            いろんなご意見をありがとうございました。視点1、2も含めて全体で説明できるように検討いたします。

会長            次に、報告事項第3号「組織改正」について、事務局よりお願いします。

事務局            先ほどの計画についてですが、ご意見を踏まえて3月9、10日に議会で説明し、図については検討中であることを報告した上で、3月末までには市長決裁を得て計画を確定させる予定ですので、改めてご報告させていただきたいと思います。印刷は新年度になります。

                      続いて組織改正についてですが、令和2年12月議会において、「西宮市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例等の一部を改正する条例」制定について、承認を得ましたのでご報告いたします。この条例は、生涯学習の振興を全庁的に、より一体的に推進するため、令和3年4月に教育委員会の社会教育部の事務

の一部を市長事務局の産業文化局に移管することに伴い、関係条例を一括して改正するものでございます。議会では2名の議員から、計画に関連した質問があり、参考までにお配りしております。市の見解がまとめられていますので、またお読みいただければと思います。

会長

このことについて、ご質問やご意見はありますか。

特になければ、次に、報告事項第4号「令和2年度兵庫県社会教育研究大会」についてです。11月18日（水）に、神戸市で「令和2年度兵庫県社会教育研究大会」が開催され、副会長と委員、事務局が出席いたしました。「資料4」をご覧ください。それでは、副会長と委員の順に、一言ずつご感想などをお願いいたします。

副会長

第1部は大規模な講演会、第2部は3地区の実践発表、第3部はパネルディスカッションでした。私は講演会に参加しましたので感想を報告します。資料4で当日の内容が詳細に示されています。講演会で感じたことですが、大阪教育大学特任教授で大阪府社会教育委員協議会会長の講演でした。大学卒業後に社会福祉士、ソーシャルワーカーとして障害者施設で働いた経験から、子供と保護者が地域の中で元気になる、地域で保護される、福祉や教育の専門職だけではなく地域の人と共生していかなければならないということを強調されました。子供を取り巻く現状はコロナウイルスの影響で深刻化する地域福祉問題や社会的孤立が起こる可能性が高く、地域においては孤立の深刻化ということで、地域のつながりが薄くなっているということですが、学校では不登校や深刻ないじめが問題になっています。これらは学校教育だけの問題ではないので、家庭の教育機能や地域コミュニティの機能の低下と大きくかかわっており、学校とコミュニティが協力して子供に関わっていくことが不可欠というお話でした。私もコミュニティ意識が薄れている状況に地域で直面しており、これからは子供を地域に繋げるとともに、学校と家庭と協働して子供の育成に関わっていきたくと改めて感じた講演でした。

委員

私はパネルディスカッションと実践発表に参加しました。新しい時代のポストコロナにどう対応するのかということや人間関係をどう育むかについてお聞きしました。社会教育についてですが、先ほども話があったように学びの循環ということで、すべてを行政に任せるのではなく、一人ひとりが自分事として協力して困難な時代の社会づくりをしていこうという話でした。私も学生として先生生徒という上下関係をイメージすることが多いですが、そうではない地域の学びとして互いに響き合ってチームプレーをしていく循環的な学びが大切だという話がどちらでもありました。社会教育の促進に大切なこととして、先ほどの話にもあった、助けられ上手になるというように、誰かの迷惑を助けてあげられるような温かい社会の促進という言葉が心に残りました。コロナウイルスもそうですが弱い人に大きな打撃があり、子供や高齢者が社会で取り残されることがあればオンラ

インを活用するなどして助け合って乗り切ることができたら、その経験や行動力を大事にしていきたいと思いました。

会長            ありがとうございます。他に報告事項はないですか。それでは、次に、協議事項第1号「令和3年度の審議内容」について、事務局よりお願いします。

事務局            資料5をご覧ください。今年度は主に生涯学習推進計画の策定についてご意見をいただくということで1年間進めてきました。来年度の審議内容についてアからウをお示ししております。アは計画37ページに学びを通した生涯学習の拠点づくりイメージの図を示しており、今後地域づくりの拠点として公民館がここに書いているような地域課題解決の推進や多世代交流の促進、人材養成講座の実施、市役所と連携した啓発講座の実施、子育て支援、共生のまちづくりとの連携などいろんなことのハブ的な役割を持ってやっていく必要があるということを計画にも書いていますので、具体的にどのように取り組むのがよいかについて具体的にご議論いただき、公民館でのワークショップを実施していくということも34ページに書いており、実際にご参加もいただきながら公民館の取り組み事例について考えるというものです。

                    イのシチズンシップの基礎講座については学習プログラムを皆さんで考えていただければというものです。計画37ページに市民性を育む学習の推進について記載しています。ここでも基礎講座の実施を検討すると記載しており、例えばSDGsと関連付けた学習プログラムや、大人の総合学習の様なものについて、委員の皆さんに考えていただくことや、ターゲットごとにチームを分けて、子育て世代への基礎講座、障害者の生涯学習などについて話し合ってくださいというものです。

                    ウは今後の社会教育の役割として、ばらばらに行われている学びを繋げコーディネートしていくことが必要ということで、地域における学びのコーディネーターにどのような人になってもらうのがよいかということについてご議論いただくというものです。できれば委員の皆様からご意見いただいて方向性を検討したいと思います。

会長            来年度の審議会の内容ということです。委員の皆さんに具体的なアイデアを出していただきたいと思いますし、それぞれの委員の皆さんの希望などあればご意見いただければと思います。

                    特にご意見がなければ、これまでの議論を参考にしながら事務局で審議内容を詰めていただければと思います。

事務局            委員より情報提供をお願いできればと思います。

委員 4つのターゲットごとにチームを分けて、子育て世代や障害者、シチズンシップ、大人向けプログラムなど記載がありますが、希望をお伝えしてもよいでしょうか。例えばですが、シチズンシップの親子向けに紹介したいのが、小学6年生向けの教科書で持続可能な社会を目指してということで、SDGsについて、持続可能な社会を2030年までに目指していくかを社会科の教科書に記載されています。SDGsに関連してシチズンシップのプログラムを作っていければと思っています。

会長 実際の社会科の教科書の内容に即してプログラムの企画を作っていければということです。本多委員はSDGsに関心をお持ちということですので、事務局とすり合わせて具体的に挙げていただけるといいと思います。他にご意見はないでしょうか。

委員 意見というか質問に近いですが、今ご提案いただいている講座やワークショップはどの程度オンラインでやれる可能性があるでしょうか。

会長 委員は参加しづらいと思います。

委員 オンラインが可能であれば本学の学生も関わらせるなど可能性が広がると思います。

事務局 グループに分かれて話をするというのは、オンライン組と現場組といった形でなければ難しいと感じていますが、市民向けに開催する場合には、オンライン講座も想定して考えたいと思っています。

委員 各公民館でどれくらいインターネット、オンラインでの講座や一般向けも組めて、環境もそうですし、そのニーズや参加してほしい市民の方、30歳代、40歳代以下の世代はスマートフォンも使っているでしょうが、70歳代以上では難しい方も多いと思います。また公民館の安定したネット環境のインフラの塩梅などもお聞きできればと思います。

事務局 本日地域学習推進課より公民館のオンライン講座の現状について報告することになっていましたので少し説明させていただきます。

事務局 Wi-Fiの件について先にお話しします。公民館では無線ルーターの貸し出しを行っており、利用できる人数もその数によるところもありますが、一定活用いただけるものかと思っています。

つづいて令和2年度の推進員会のオンライン講座についてご報告します。公民

館地域学習推進委員会は、公民館から選考された5～7名の推進員が講座を企画運営しており、市内24公民館に設置されています。生涯学習推進計画の策定の際にはアンケートにもご協力いただいています。新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は来館を伴う講座を中止し、市の公式YouTubeによるオンライン講座を開催することになりました。資料は、令和2年度に開催を予定していた中から、1講座以上実施を目標に、推進員が講師に相談、調整を行い、実施が決定した各推進員会の講座を一覧にまとめたものです。講師には西宮の大学や市内にお住まいの方、活動されているグループなど西宮にゆかりのある方が多く、講座の内容についても地域の歴史や文化に関わる内容などもたくさんあります。ほとんどの講座は録画を終えており、一覧の中の21番の越木岩公民館の「夢をカタチに!」、23番の上ヶ原「西宮に『麒麟』が来た?」、25番の地域学習推進課「青天を衝け」については、すでに公開をしています。25番の東高校霜澤先生の歴史講座については、毎年10の公民館で開催しておりますので、特定の推進員会という訳ではなく、西宮市の推進員会全体の講座として公開しており、こちらについては1月から公開をしています。既に32,000回視聴されている状況です。その他の講座も当課で編集を随時公開し、最長で2年掲載する予定になっています。報告は以上です。

会長 質問ですが、審議内容にあるシチズンシップ基礎講座についてですが、実際の実施も見込んでということでしょうか。例えば前半にプログラムづくりを行い、後半に実施すると考えていいのでしょうか。

事務局 時期が間に合うかどうかは別として実施までできればと思っています。プログラムをつくるで終わっても仕方ないと思いますが、できればどこかで実施できればと思います。

会長 予算はたっぷりあるのでしょうか。

事務局 来年度については、組織改正もあり、大学交流センターも同じ局の中で連携し合うこととなります。その中で、移管する公民館・図書館等と産業文化局の大学交流センターや消費生活センターと連携していく環境となります。その中で大学交流センター20周年事業というのがあり、それと市民性を育む基礎講座も一緒にやれば良いと思っています。そのため、年度前半を企画に宛て、後半に舞台を用意できればと思っています。

会長 今から考えても楽しそうです。他にご意見はないですか。それでは、これまでの意見を踏まえながら事務局で進めて頂きたいと思います。

最後に今年度はコロナの関係で、各委員の所属におかれましてはいろいろと大

変な状況であったかと思えます。コロナの状況の中、活動等も含め、ご感想などを一言ずつお願いいたします。

委員

P T Aから参加しています。今年は年度初めにコロナでいろいろどうしたらいいかと悩みつつ、1年が終わりつつありますが、前半は様子を見ながら、子供の健康・安全を重視しながら保護者の関わりについてできる形を考えて、市内の幼小中が70ありますが、理事会1つでも80人くらい集まる場をどうするかを考え、なかなかつながれないもどかしさを感じながらの1年でした。ここで勉強させていただいて、つながりというのは大事だなと思い、リモートと会場とでやっていくということがP T Aでもできればということはあるながら、なかなか環境も整わない中、来年度はどうできるのか考えながら計画を立てているところです。2回に分けてやるということも考えながらやっています。P T A協議会で出来なかったことも、この場でいろんな視点の意見を聞きながら、活かせる形を模索しながら勉強させていただきました。去年であれば懇親会がこの後あって親しみが持たせて終わっていただろうと思うと残念な気持ちでいっぱいです。去年の懇親会でいろいろお話できたことで、今年はお話もしやすかったですので、初めて参加された委員には、私の娘と同じくらいの歳でいろんな話ができればと思いつつそういう場が持てなかったのは残念です。

委員

子ども会協議会から参加しております。この計画案に書かれていることですが、私は地域で活動しておりますので、地域にはいろいろな団体があります。そこで地域の課題を解決するためにいろいろな会議があります。この計画案の地域円卓会議に一番惹かれましたので、われわれ地域で活動している人間としては、この会議をぜひ実現して頂くには、行政の支援がないとなかなかできないことだと思います。是非、この計画を地域におろしていただきたいと思えます。

子ども会のことですが、皆さんと同じように一番大きな子ども会大会が70周年を迎える会で、本来なら市役所前の公園で全市の子供が集まっていろんな行事をする予定でしたが、それが出来なかったため、記念誌を作成し、そこで子供たちが自分の住んでいる地域のクイズを考えたり、地域のアピールをしてくれたり、子ども会のイメージ、子ども会を漢字一文字にしたらとか、マイムーブとか、180名の子供が冊子の作成に応募してくれ、素晴らしい記念誌ができたと思っています。子供は行事を本当にしていないと思えます。その中でもうれしかったのは、子ども会のイメージで思ってくれていたことが、子ども会について笑顔溢れる子ども会、ふれあいの場、楽しい、わくわくする場所、仲間づくりなど、子供が感じているのが感謝の限りです。一年間皆さんと仲良くなれたことに感謝したいと思えます。

委員

中学校の様子ですが、報道等でご存知の通りコロナ禍の中で行事・取組みを中

止、縮小せざるを得なかったところです。人とのつながりを大切にと言ってきたにもかかわらず、ソーシャルディスタンスの中で給食も黙って食べるということで、寂しい1年だったと思います。どの学校でも地域に出て行って触れ合いを通して心を豊かにするということがありました。夏祭りも冬の餅つきにも参加できませんでした。その子供が今後10年を生きるときにどうこの経験をプラスにできるかがアフターコロナで学校が考えるべきことだと思います。この1年いろいろなご意見を聞かせて頂きながら多少は成長できたかと思っています。ありがとうございました。

#### 委員

私が所属している知的障害者の施設の現状は、利用者さんがストレスをためられており、ご家族も基本的にはシャットダウンしていて、申し訳ないと思いつつ今日までクラスターも出さずに来ています。これからも私の様な事務局の者もしっかりやっていきたいと思っています。今後一番心配なのはワクチンについてです。利用者さんは外部での接種ができませんので、保健所からの派遣なのか委託病院からなのかははっきりしていませんし、後見人の方は医療行為への同意が認められていませんが、この件について特例措置ができるのかなどいろいろな問題がありますので、次のステップとしてワクチンについてどうなっていくかを見ながらやっています。香川大学のさかい先生のエッセイを以前事務局にご参考として出ささせていただきましたが、その最終回の中でYouTube動画にイアンというショートムービーがあり、アルゼンチンでつくられたものですが、それを見ていて考えさせられたのは、当たり前と考えていることは本当に当たり前なのかということです。無理なことを求めているか、支援を受けながら生活しても大丈夫といえる社会をつくらなければならないと結んでいます。とても考えさせられるムービーでしたので、一度ご覧いただければと思っています。私も50歳代後半でこういうところで勉強させていただき、新しいことばかりで学ばば学ぶほどわからなくなってくることもあります。市民として、甲子園口から神戸市北区まで電車に乗っていきますが、甲子園口周辺もたばこのポイ捨ても自転車の路駐も多いです。どうも28年前に西宮に来た時と比べると環境がよくなってきていると感じますが、その中でJR甲子園口駅の改札近くの花壇に心を癒されながら出勤しています。地域づくりということでやっていると、一人ひとりの学習の成果が地域づくりになっていくと思っていますので、そうなれるよう、自分が70歳、80歳になった時に西宮が気持ちいいまちだと思えるようやっていきたいと思っています。ありがとうございました。

#### 委員

推進計画ができるという過程の中にパブリックコメントの活かし方など勉強になり、とても大切なものができたと思っています。芸術文化関係から来ていますが、市との共催の文化活動はほとんど流れています。1年さみしい思いをしています。少し面白いことがあり、月曜日の新聞でグランマ・モーゼスさんの展覧会が



紹介されていたものです。70歳になるまではアメリカで酪農の仕事をしていたそうです。自分たちの生活範囲の中の集いや季節の移り変わりを地道に、70歳で初めて絵筆をとり、80歳で初めて個展をし、100歳が最後の作品だったそうです。70歳になっていないならまだまだ遅くないです。まさに自己表現をする、学ぶという行為です。ただ、この方は亡くなってからもう60年になります。第二次大戦で国民の心が大変だった時に素朴な絵を描き始めたわけです。有名になり日本にもファンの方がいます。もう一つすごいのは、西宮ではなかったと思いますが、ある教科書会社のつくった教科書の1ページ目の見開きにこの人の絵が紹介されており、70歳から絵を描き始め、何百点と作品を作ったと書かれています。中学生はどう思うのでしょうか。学びのありようについて、そういう姿勢で、自分の姿勢と周りとの環境がミックスされて、その人が頑張れたのはまさに地域のつながり、地域の祭りなどを描かれています。それが教科書に載ることで学びについて子供に大きなものを与えてくれたと思います。まだまだ遅くないと思え、生涯学習のありようについて、われわれがやっていきたいと思うものが今でも生かされているということがありました。

委員

スポーツ推進協議会から来ています。スポーツ推進員の研修会が8月と12月以外に毎月ありますが、これが緊急事態宣言中ではなく、やっていた時でも中央体育館の2回の観覧席がありますが、そこで1つずつ空けて座り、役所の方はアリーナで話すという会議をしていました。例年だと12月に懇親会があったり、任期末の懇親会もなく、寂しい感じで2年の任期が終わろうとしています。小学生のサッカーチームの監督をやっていますが、この頃人数が集まりにくくなっています。5～6年前の半分になっています。人を増やすということで、この計画で何かヒントになる様なことがあるかと思ったのですが、何かあるだろうかと思っています。来年度は公民館のあり方、どうやって参加してもらおうかという中でヒントをもらえればと思っています。

委員

1年間お世話になりました。終わりと思うと寂しい気持ちもありますが、来年度も楽しい時間を共有できそうで嬉しく感じています。これまでは対面でお話していましたが、今期はこういう形でオンラインになり、事務局の皆さんはじめ、急な状況の中で対応して頂き感謝します。もともと仙台におり、毎回会議に出席するのは委員を受けた当初から難しいという状況の中、いいのだろうかと思いつながら参加させていただいていましたが、オンラインなら場所が関係なくなり、参加しやすくなり、皆さんともお会いできる機会が増え大変良かったと思っています。オンラインに慣れない中では難しい面もあったと思いつつ、慣れてしまえば意外と支障がないのではと感じています。コロナが終息したのちどうなるかはわかりませんが、一つの生涯学習の便利なツールとしてオンラインを活用していくことも大事だと実感しているところです。唯一懇親会ができないことだけ残念に感じ

ています。来期はコロナが終息することを祈っています。大学でも当初はオンライン授業が大変でしたが、学生が優秀だということもあるでしょうが、意外とオンライン授業は便利だということがあり、いろんな可能性が開けた面も大きいと思っています。一方で1年生は友達ができないでストレスを感じていたりしています。上級生の学生と話す、就職活動などで学外や海外の人とは結構簡単に繋がれるが、学内のつながりがないのでそういう活動に参加したいと言っています。近い人とはつながりにくく、遠い人とはつながりやすいというオンラインの特徴も見てきたように思いますので、長所と短所を理解しながら、リアルで集まらなければ実現できない学びもあると思いますので、よりよい生涯学習の環境づくりについて考えていきたいと思った1年でした。

委員 毎回オンラインで参加させていただいていました。事務局にはセッティングなどお世話になりました。委員のおっしゃる通り、オンラインだからこそ遠隔授業をしつつ会議に参加させていただいていたこともあり、時間としてはいろいろな使い方をさせていただけました。ただ、実際会議室に参加させていただいていないということで、オンラインでは雑談が少なくなると言われており、授業でも本来授業の時間の中で、パワーポイントで授業をするなら30分や1時間で終わってしまうということがあり、目の前の学生との雑談が減ったということです。それが人と人とのつながりとか、新しい発想とかに続くのに、そういうことがオンラインでは無いということを思いますが、私にはこの会議で人づくりや地域づくりに多くのことを学ばせていただきました。パブリックコメント一つとっても市民の意見や委員それぞれの立場からのご意見を聞かせて頂き参考になりました。ありがとうございました。

委員 皆さんには1年たいへんお世話になりました。1人だけ学生で至らないところもあったと思いますがありがとうございました。私も学校がオンラインで、1人暮らしで、何とか乗り切った1年でした。サークルでキャンプボランティアをしていますが、全く活動できず、新入部員も入らずで、ネットで募集するなどして何とか頑張れた1年だったと思います。来年も引き続きよろしくお祈りします。

会長 私からも一言、昨年1年間、事務局、委員の方々にお世話になりありがとうございました。それでは今後の日程について事務局から説明をお願いします。

事務局 次第にも記載しておりますとおり、当初、11月に開催を予定しておりましたが、阪神南地区社会教育委員協議会の研修会は、一旦延期となっておりますが、緊急事態宣言を受けて、今年度は開催中止となりました。また、3月25日(木)13時30分から、令和2年度西宮市生涯学習関係職員等研修会を実施予定です。オンラインと会場出席を兼ねて開催を予定しておりますので、ご都合のつく方は、是

非ご参加ください。研修会につきましては、お配りしております最後の資料に「次第(案)」がございます。東京大学大学院の牧野篤先生を講師として、地域づくりを拠点とした公民館のあり方などについて、ご講演いただきます。ご出席が可能な場合は、3月12日(金)までに事務局までお申し出ください。

令和3年度の会議関係スケジュール(予定)は、「資料6」のとおりです。第1回会議は、4月22日(木)13時30分から、本日と同じようにオンライン会議で開催いたします。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。

会長 他にご意見などないでしょうか。

副会長 1点報告があります。先日、伊藤篤 前社会教育委員会議議長が、令和2年度西宮市教育功労者表彰を受賞されました。伊藤先生は、平成26年から本市社会教育委員会議の議長として6年務め、本市の社会教育行政の大きな転換期にあたって精力的に答申をまとめるなど、全庁的な生涯学習の推進体制の構築に向けて大きく寄与したとして表彰されました。表彰式は、コロナウイルス感染症防止のため、縮小した形で行われ、私が同席させていただきました。2月25日、本日発行の市政ニュースにも掲載されております。

会長 他にないでしょうか。それでは副会長から一言お願いします。

副会長 青少年愛護協議会から参加していますが、年度当初から学校が休校になったり時差登校になったりして、子供を対象としたイベントが全て中止、延期の要請があり、どの地区も実施できませんでした。時差通学の地区では登校に合わせて見守りをするなど、各地区で方向を転換してできることを創意工夫して実施してきました。7月からは自粛要請の解除がありましたが、実施体制がなかなか整わなかったり、感染対策をきちんとしながらの活動となり、各地区とも工夫をしていましたが、例年の半分にも達していないのが実情です。定例会も三密の関係で会場の確保が難しく開催できていない地区もあるということも聞いています。私の地区ではできるだけ感染防止対策を施しながら、放課後子ども教室を9月から予定通り実施しています。できるだけ地域と交流ができるようにということでミニ運動会や正月の凧揚げ、ドッチボール等を実施しています。たくさんの子供が参加しています。学校長とも協議しながらできることから実施しています。地域により相違があるでしょうが、各地区の青少年愛護協議会も創意工夫しながらここまで頑張ってきてきました。

本日の最後のごあいさつになりますが、委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただき、貴重なご意見をありがとうございました。本日は令和2年度最終の審議会となります。新型コロナウイルスの関係で、各委員の皆様もいろいろと大変な中、生涯学習推進計画がまとまりましたこと感謝いたします。来年度はコロナウイル

スが終息し、皆様とお会いできることを楽しみにしています。本日はどうもありがとうございました。

会長

どうもありがとうございました。この1年委員の皆様にも事務局の皆様にもお世話になりました。以上をもちまして、令和2年度第6回生涯学習審議会を終了いたします。

以上。